



「二中はボランティア精神の育成に努めている」93%

校長 池田浩二

今年度も保護者アンケートにご回答いただきありがとうございました。その結果につきましては、先日開催しました学校評議員会で見いただきましたが、「『ボランティア精神の育成に努めている』93%は、素晴らしい。生徒や保護者にも定着している」という意見をいただきました。5年間継続してきた成果を評価していただき大変うれしく思っています。今年度もこの原稿を書いている段階で、16のボランティア活動に延べ241名の生徒が参加しました。1人で11回も参加した生徒もいましたが、全校生徒数255名からすると大変多くの数だったと思います。

成果が上がっている要因には次のような体制が学校と地域にできてきたことにあると思っています。



- ① 年度当初に、ボランティア活動の年間予定を全生徒に知らせ、実施時期に再度募集を呼びかける。
- ② ボランティア団体の方に二中のボランティア活動についての説明を行い、地域の受け皿づくりを進める。
- ③ 全教員が1人1ボランティア以上を担当し、生徒の募集や指導、外部団体との交渉調整に当たる。
- ④ 外部団体の方に来校していただき、校内での事前説明会を行う。
- ⑤ PTAの協力で、ピンクのボランティアTシャツを作ってください、参加者全員が着用する。
- ⑥ 終了後、団体独自の感謝状などを作成していただき、全校朝礼などで表彰する。

5年目を迎え、地域の受け皿がしっかりとできてきたのを感じています。生徒一人一人を大人として扱っていただき、ボランティア活動を通じて地域の方たちが二中学生を育てていこうという意識が高まっています。地域の協力でできた93%でした。



❁ 新年の抱負 ❁

年が明け、気持ちを新たに学校生活をスタートさせた生徒たちですが、毎年二中では冬休み明け集会で代表生徒が新年の抱負を発表します。今年は二中学生を代表して3年1組の高松奏仁君が新年の抱負を発表してくれました。皆さんも是非今年一年をどのようにしていきたいか考えてみてください。

ついに、2017年の学校生活も始まりました。皆さんは今年の目標をたてましたか。

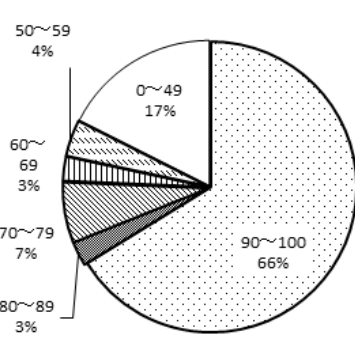
私は、二つの目標をたてました。一つ目は忘れ物をしない、身だしなみを整えるです。その目標の理由は、忘れ物をしてしまったり、身だしなみがだらしない時があるからです。なので忘れ物をしないように点検をしたり身だしなみを整えて生活していきたいです。

二つ目の目標は受検で合格するために受検勉強を頑張る事です。面接や文章読解をできるようにしていきたいです。

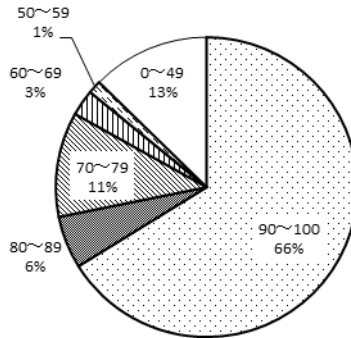
皆さんも周りの人に負けない目標をたててみてください。そしてみんなと協力しあって目標を達成できるようにしていきましょう。

❁ 学習コンテスト ❁

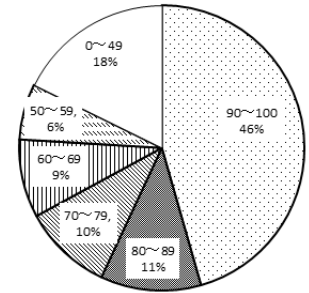
12月16日(金)に第2回学習コンテストが行われました。今回は英語単語などを中心に出題をしました。事前に出題内容を生徒に知らせ、授業で練習し家庭学習などで繰り返し復習をした結果を下記のような達成率のグラフで表してみました。全学年とも、とても良い結果になりました。特に1・2年生は、学年の約66%の生徒は達成率90%以上という高得点となりました。今回の結果を自信につなげ次回も頑張ってください。



《 1 年 生 》



《 2 年 生 》



《 3 年 生 》

❁ 軽井沢冬季移動教室 ❁

1月23日(月)から25日(水)まで2年生は軽井沢冬季移動教室に行ってきました。スキー場は気温がマイナス14度で立っているだけで肌が出ている顔などが痛くなるほどでしたが3日間天候にも恵まれ雪質も良く、初めはスキー板を履いて歩くだけで転倒してしまった生徒も最終日にはブルークボーゲンでグレンデにシュプールを描くぐらいまで上達することができました。

また、宿の中野区少年自然の家ではジェスチャーゲームや百人一首などのレクリエーション企画もあり、語りあい、ふれあい友情をより深めることもできました。

初めてリフトに乗り、その高さや乗り降りに苦労し乗っている時の寒さにスキーは大変だと感想を持った生徒もいましたが、「スキーで滑ることは楽しい」「また行ってみたい」「インストラクターや多くの人に感謝したい」「転んでいるのを助けてくれた友達に感謝したい」など大自然や仲間からいろいろ



んな経験と多くのことを学び大きく成長した2年生でした。この思いをこれからの学校生活や修学旅行につなげられることを期待します。

❀保健講話《義肢装具装着体験・パラリンピアン講演会》❀

1月14日学校公開日に、義肢装具協会の方の協力を得て実施しました。義肢装具体験では、高齢の方など体の不自由な方の疑似体験を行いました。そして、装具の着用や義足の体験を行いました。体の不自由な方や義足のユーザーの方が、日常生活でどんなことに困っているのかほんの少しですが、感じることができたようです。また、



義足ユーザーの古村さんとの交流会では、義足を始めて見たときの思いやりハビリのこと、中学生の頃のお話を伺いました。中学生の頃、部活で行っていたバスケットボールと一緒に楽しみました。

講演会では、リオパラリンピック ボード競技に出場した駒崎茂選手がお話をしてくださいました。交通事故で両足を失い義足を使用することになり、健康のために始めた水泳をきっかけにボート競技に出会ったそうです。水泳で鍛えていた筋肉がボート競技でも役に立ち、めきめきと成績をあげ、パラリンピックに出場するまでになったそうです。他にリオパラリンピックの選手村の様子など、楽しいお話も聞かせていただきました。駒崎選手の前向きに頑張る姿に生徒達は、勇気とパワーをもらいました。



❀特別支援教育の取り組み❀

「特別支援教育」と聞くと、なんだか難しい話なのではないかと構えてしまう人もいるのではないのでしょうか。「特別支援教育」とは、「障害のある生徒への教育だけでなく、障害の有無やその他の個々の違いを認識しつつ様々な人々が生き生きと活躍できる共生社会の形成の基礎となるもの」とされています。このように難しく考えなくても、「特別支援教育」の考え方は、誰にとっても身近で、役に立つものなのではないかと思います。

例えば、私はダンスが苦手です。振り付けを手と足、同時に動かすことがうまくできません。そのため、中学生のダンスの授業では、手の動きと足の動きそれぞれを別々に何度も何度も練習しなければなりません。そして、一緒に踊る仲間も、そんな私の苦手に合わせて繰り返し練習に付き合ってくれたり、待ってくれたりしました。こんな経験が、皆さんにもありませんか。

苦手なことがある人のことも尊重し、必要な手助けをしたり、待ったりすることで、一緒に何かを成し遂げていくことを学校生活の中で経験することができればと思います。自分の得意なことで苦手なことをある人を助けることができないのでしょうか。自分が苦手なことでどのような手伝いや配慮があればその苦手が軽減できるのでしょうか。自分の得意なこと、苦手なこと、そういうことをちょっと考える機会を持っていただけたらと思います。